

2014年6月3日 みんなで俳句を楽しもう



ID番号 N14623

更新日 平成26年6月12日

日進市／俳句を詠むことで自分なりの何かを感じ取ってもらえれば

俳句を楽しむ同好の士の集まり「にぎわい句座」（水谷淑子代表）の6月度句会が6月3日、にぎわい交流館2階会議室で行われました。



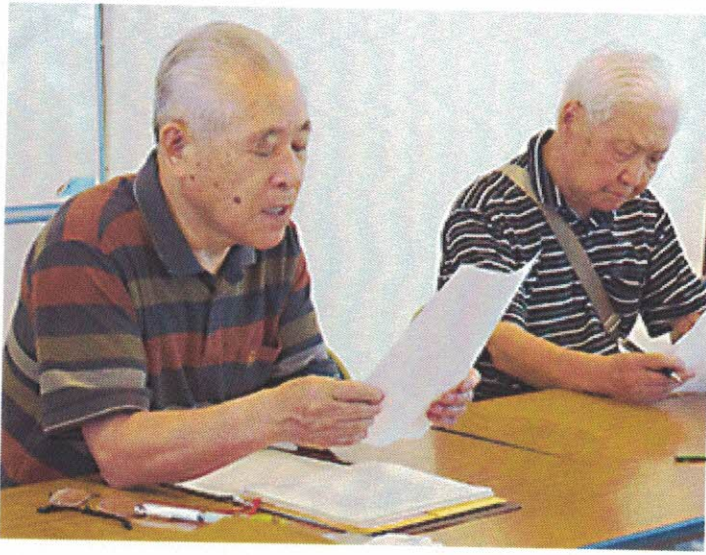
各自で受け取った短冊の5句を清記用紙に清書する参加者たち=にぎわい交流館で

今回、市制20周年記念協賛事業として句会を開催している「にぎわい句座」は、代表の水谷淑子さんの発案で2年半ほど前に設立されて地道に活動をしています。広報につきん5月号の紙面上で、俳句に興味のある人の参加を呼びかけるなど告知も行われました。

この日の句会には女性7名、男性5名の12名が参加し、講師として「にぎわい句座」の立ち上げにも関わった有元洋剛（ありもと・ひろし）さんの司会、進行で始まりました。

句会は例月どおりで次のように進められました。参加者は日常生活の中で詠んだ句、5句を小さな短冊型の用紙に記入して持参し、受付担当へ提出します。その短冊を無作為に5句ずつまとめ、専用の用紙（俳句清記用紙）に添えて一人ずつに配布します。各自受け取った短冊の5句を清記用紙に丁寧に清書していきます。清書した句をさらに自身のノートに一句ずつ転記します。書き終えた清記用紙を隣の人に回しながら、これを続けて全員の句をノートに転記します。

この時、難しい漢字や言葉遣いなどは電子辞書などを使って確認しながら進めていました。全員の転記が終わったところで、手元に残った清記用紙の句を有元さんから順に全員が読み上げていき、確認をします。すべての句を読み終わると各自が良いと思う句6句を選び、それを発表してそれぞれが自分のノートに記号などで記します。



講師の有元さんと水谷さんは得票数の多かった句や気がついた句などについて、講評や助言をしました。作品中にあった「賜ひたる（たまいたる）」という表現について有元さんからは、頂いたという意味であれば「賜りし（たまわりし）」が良いのではないかなどの指摘もありました。

アメリカのゴルフツアーで日本人としては最年少で優勝した松山英樹選手を呼んだ句に使われた「今年竹（ことしだけ）」という表現について有元さんは「今の時期を表す季語であり、どんどん伸びていく若竹を表すとともに、活躍が期待される伸び盛りの若者を重ね合わせています」と解説をしました。

また、バラには「とげ」があるのに「私には無い不思議」と詠んだ句に、有元さんは「私には有る不思議」としてみてはどうです、と冗談を飛ばして笑いを誘うなど会場は打ち解けた様子でした。

「にぎわい句座」では優秀作の順位付けや得点化などはしていません。評価などについては、各自がノートへの記録にとどめているそうです。有元さんは「得票の結果で順位や賞などを決めないのは、皆さんそれぞれが評価については自分なりの何かを感じ取ってくればいいかなと思っているからです。17文字という字数と季語などの約束事のある俳句は似通った句ができることもあります。詠んだ句の背景や想いを感じ取る時、それが作者の意図と違うことがあっても、それはそれでいいと思います」と話しました。



最後に6月21日からの展示会へ作品を色紙と短冊で提出することや、展示の方法などについて確認をして6月の定例会を終了しました。初参加の男性は「俳句が趣味で市民講座も受講しましたが、月1回程度では物足りなく、俳句に接する機会を増やそうと参加しました。作風などは少し違う印象ですが、和気あいあいとした雰囲気楽しく、このあとも続けていきたいと思います」と話してくれました。

水谷さんは「6月21日から30日まで、にぎわい交流館の小さなギャラリーで会員の作品展示を行います。ご覧になって俳句作りの楽しさを感じとっていただければ幸いです」と語ってくれました。
【市民スタッフ 竹村文男】

[まちの話題トップに戻る](#)

このページに関するお問い合わせ



秘書広報課広報広聴係

電話番号：0561-73-3149 ファクス番号：0561-72-8861

 [ご意見・お問い合わせ専用フォーム](#)